

平成24年度氷見市教育委員会の事務の点検及び評価
結 果 報 告 書

平成 2 5 年 3 月

氷見市教育委員会

I 平成 24 年度点検及び評価実施方針

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、氷見市教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

平成 23 年度の教育委員会の重点施策のうち、氷見市教育振興基本計画に位置づけられた 41 事業について点検・評価を行う。

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検評価

上記の事業について、教育委員会が点検・評価を行う。

(2) 学識経験者の知見の活用

氷見市の教育に関し氷見市教育振興委員会委員から、教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、本書に記載する。

学識経験者

(50 音順・敬称略)

氏 名	所 属
瀬戸 健	上越教育大学教職大学院教授
竹岸 秀晃	氷見市小中学校 PTA 連合会会長
徳前 啓人	青少年育成氷見市民会議会長
本川 由子	会社役員
山本 晶	富山県教育委員会学力向上アドバイザー

(3) 議会への報告及び公表

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会へ報告するとともに、氷見市ホームページにも掲載する。

II 点検及び評価の結果

別紙「平成 23 年度事業の点検・評価シート」のとおり

平成23年度事業の点検・評価シート

基本目標A 生きる力を育む学校教育の充実

基本方針1 確かな学力の育成

(1) 学力の定着と向上

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
理科大好き「氷見っ子」育成講座開催事業 (学校教育課)	小学生を対象とした理科(科学)の実験教室を通じて、次代を担う子供たちの知的好奇心や探究心を高め、理科が大好きな人材を育成する。	○市内小学3年生から6年生児童約70名を対象に、2時間程度の理科(科学)実験教室を年間10回開催した。 会場 中央公民館 第1・2研修室 講師 池田紅子先生、アシスタント4名	○初めての試みだったが、小学3年生から6年生までの多くの児童が一同に集まり楽しく興味を持って理科実験に取り組むことで、個々の学習意欲の向上を図ることができた。 ○今後は、小学校低学年、中学年、高学年に分け、それぞれの学年レベルに応じた内容の濃い理科実験教室を開催しく。
小学校学習サポーター派遣事業 (学校教育課)	小学校における新学習指導要領の円滑な実施及び学力の向上のため、学習サポーターとして地域求職者を雇用し、教員が子どもと向き合う時間の確保など教育環境の向上を図る。(重点分野雇用創出事業)	○地域求職者3名を雇用し、各小学校において1日4時間程度、複数の教師等が協力して授業を行うティームティーチングや教材の作成、テストの採点などを実施した。 実施校 比美乃江小、宮田小、久目小、海峰小、灘浦小	○学習サポーターの派遣により、教員が子どもと向き合う時間を確保できるようになり、教育環境の向上を図ることができた。 ○今後も継続して当事業を実施することが教育環境の向上の観点から必要であるが、県の重点分野雇用創出事業は平成24年度で終了するため、平成25年度以降の対応について検討していく。
氷見の学力向上フロンティア事業 (教育研究所)	児童生徒の学力向上を図るため、学力向上拠点校による研究、教職員の指導力や資質の向上を図る研修会を実施する。	○学力向上拠点校による実践研究 ○学力向上推進研修会 ○教育セミナー 講師:国立教育政策研究所 調査官 礒部年晃先生 ○とやま型学力向上プログラム研修会 講師:県総合教育センター 学力向上推進チーム	○学力向上拠点校の研究実践を中核とし、そこでの研究成果を広めることができた。 ○今後は、さらに全小中学校の学力向上につながるように、小中連携教育の推進という視点からも研究を深め、一層の学力向上に努める。

(2) 情報教育の充実

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
コンピュータ支援講師配置事業 (学校教育課)	ICTを活用した授業を円滑に行うため、コンピュータ支援員を配置し、ICTを活用した授業の補助やICT機器の操作に関する助言を行うなど、教職員のスキルアップを図る。	○コンピュータ支援員2名を小中学校へ順次派遣した。 ・小中学校のホームページ更新 ・パソコンの設定やネットワーク設定の変更 ・ICT機器に不具合が生じた場合の初期対応	○本事業はふるさと雇用再生特別基金事業の一環として実施したものであり、平成23年度をもって終了となる。 ○近年、教育現場には校務用・教育用ともに多くの情報機器の導入が推進されており、これに伴ってこれら機器の維持管理等の重要性が増している。このような状況の中、各校へコンピュータ支援員を派遣できたことは情報機器の適正管理・有効活用に大きく貢献した。 ○なお、平成24年度は重点分野雇用創造事業の補助を受け、「学校ICT支援員派遣事業」として実施していく。
電子黒板購入事業 (小学校教材備品購入費) (学校教育課)	市内小学校11校(導入済みの比美乃江小学校を除く)へ電子黒板機器を導入する。	○小学校11校へ電子黒板機器を導入した。これにより、市内すべての小学校で電子黒板を使用した授業を行うことが可能となった。 導入対象校 朝日丘小学校、宮田小学校、窪小学校、湖南小学校、十二町小学校、上庄小学校、明和小学校、速川小学校、久目小学校、海峰小学校、灘浦小学校	○本事業をもって市内すべての小学校へ電子黒板の導入が完了し、「分かる授業」「学ぶ喜びを味わえる授業」の実践に向け効果をあげている。しかし、「電子黒板を活用した教育における調査研究事業」の一環として導入した比美乃江小学校を除いては1台のみの配置であり、各校とも追加での配置を望んでいる。 ○加えて、電子黒板の有効活用には、デジタル教材の充実が重要とされており、学校からの要望も強いことから、計画的な整備を図ることが必要である。

(3) 国際理解教育の充実

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
国際教育推進事業 (教育研究所)	中学校英語において、ネイティブ・スピーカーの英語にふれさせることで、コミュニケーション能力の育成を図る。また、小学校における外国語活動及び国際理解教育の推進を図る。	○ALT4名、CIR1名を市内全小中学校に配置 ○夏季休業中に開催される英語暗誦大会の事前指導及び当日の審査 ○夏季休業期間中の、校内研修会への参加	○中学校における英語及び小学校における外国語活動において、ALTの果たす役割は大きい。 ○国際社会において積極的にコミュニケーションする態度を育てるために、今後もこの事業を継続する必要がある。
小学校外国語授業力向上推進事業 (教育研究所)	平成23年度から全面実施された小学校での外国語活動における教育環境を整備するとともに、教員の指導力の向上を図る研修会を実施する。	○外国語活動協力員を市内小学校に配置 ○外国語活動研修会 講師：西部教育事務所研究主事 室崎ゆかり先生 ○小学校外国語活動における教材づくりとその支援	○新学習指導要領の移行期間において、外国語活動協力員を配置したことは、教材づくりやALTと連携した授業づくりに効果があった。 ○今後は、コミュニケーション能力の育成と、外国語活動が行われる高学年担任の負担を軽減し、指導の充実を図る必要がある。

(4) 特別なニーズに対応した教育の推進

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
特別支援スタディ・メイト派遣事業 (学校教育課)	発達障がいを含む障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うため、学級担任を補助するスタディ・メイトを派遣し、障がいのある児童生徒に対する個別の指導体制の整備を図る。	○スタディ・メイト(小学校8校13名、中学校3校3名配置)が週1～3回、特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活や学習上の支援を行った。	○小学校では、個々のニーズに応じた指導が充実するとともに、落ち着いた雰囲気での授業を行うことができるなど効果は上がってきている。 ○小学校卒業後も支援を要する子どものために、平成23年度から中学校にスタディ・メイトを配置した。 ○学校のニーズは年々高まっており、報償費の増額と人材の確保が課題である。

基本方針2 豊かな心とすこやかな体の育成

(1) 豊かな心を育む教育の推進

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
氷見の教育基本方針推進事業 (学校教育課)	氷見の教育基本方針の3つの柱に基づき、2分の1成人式、ボランティア活動、グリーンエコカーテンづくり等、児童生徒の発達段階を踏まえた特色ある活動に、各学校や中学校区ごとに計画的に取り組む。	○朝顔の背比べ(低学年によるグリーンエコカーテンづくり)の実施 ○2分の1成人式(小学校4年生を対象に博物館・図書館見学及び読み聞かせ体験や夢作文を書く)事業の実施 ○中学校区で小中学校が連携したあいさつ運動や清掃活動及び講演会の開催 ○校区の特色を生かした体験活動の実施	○「グリーンエコカーテンづくり」や「2分の1成人式」などの活動を通して、命の大切さや節目の10歳としての自覚を高め、夢をもって生きていこうとする心情を高めることができた。 ○小中学校が連携した活動を実施することで、中1ギャップの解消につながったと考えられる。 ○各校区での活動を通して地域に学ぶことは重要であり、地域の自然や産業、文化、歴史について、魅力ある人や指導者との出会いの場を広げるために新たな活動の掘り起こしも必要である。 ○今後も「氷見の教育基本方針」に掲げる3つの柱の実現に向け、発達段階に応じた特色ある活動に計画的に取り組んでいく必要がある。
社会に学ぶ「14歳の挑戦」推進事業 (学校教育課)	生徒の規範意識や職業観を育成するなど、目的意識を持って主体的に自己の進路を選択し、夢や志を持って社会を生き抜いていく力を身に付けられるよう、社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業を推進する。	○市内の全中学校2年生が、5日間学校を離れ、校区にある公共施設や企業、商店などで、職場体験活動や福祉・ボランティア活動に取り組んだ。	○生徒はこの活動を通して、働くことの厳しさや喜びを体験し、学校では得られない充実感と達成感を得ることができた。また、生徒の人生観や勤労観の形成及び社会性の育成に多いに役立った。 ○多様化する生徒の希望に添うような事業所の新規開拓と協力要請が今後の課題である。
「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業 (教育研究所)	氷見の教育基本方針の一つである「夢や希望をもって自分のよさを伸ばし、進んで羽ばたく子どもに育てる」ことをねらい、中学校2年生を対象に講演会を実施する。	○講演会 講師:JAXA「はやぶさ」プロジェクトマネージャ 川口淳一郎 教授 演題:『「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行 その科学と技術』	○生徒のアンケート結果から、本事業が生徒にとって大変有効であることが分かる。 ○今後、講師選定にあたっては、ふるさと氷見に縁のある著名人という視点も踏まえ、生徒の心に響く講演会として充実を図る。

(2) 読書環境の充実と読書活動の推進

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
小・中学校図書館図書購入事業 (学校教育課)	「本が大好きな子ども」の育成を目指し、朝読書をはじめとする教育活動全体の中で児童生徒の読書の習慣化を図るため、児童生徒が読みたくなる本など学校図書館図書の蔵書を充実する。	○図書購入費用を学校の規模、学級数に応じて配分し図書館図書の充実を図っている。	○学校の規模、学級数に応じて図書購入費を配分し図書館図書の充実を図ったが、平成23年度末で小学校1校、中学校3校が学校図書館図書標準の冊数を満たしていない。 ○すべての学校で図書館図書の更新を行いつつ、氷見市こども読書活動推進計画に基づき平成26年度までに蔵書率100%を目指したい。
小学校読書活動推進事業 (学校教育課)	児童生徒の自主的・自発的な読書活動を推進するため、本の読み聞かせや図書室の環境整備などを行う図書司書を小学校に配置し、学校図書館の充実・利用促進を図る。	○学校図書館司書5名が市内12小学校を巡回し、児童への本の読み聞かせや読み方の指導、図書室の整備などの読書活動を推進した。	○平成23年度から学校図書館司書を増員(2人→5人)し、市内12小学校へ週2～3日配置することにより、児童の読書活動推進の一助となっている。 ○今後も、図書整備とともに、児童生徒と本をつなぐ役割を果たす学校図書館司書の継続的な配置に努めていく必要がある。

基本方針3 安全安心な教育環境の整備

(1) 地域に信頼される学校づくりの推進

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
ふれあい学校環境づくり事業 (学校教育課)	学校と保護者や地域住民との協働の作業による学校施設の簡易な整備に、材料支給等の支援を行い、快適な学校環境づくりを推進する。	○自分たちでできる学校の環境整備を通して、学校と保護者や児童生徒が協力して教育環境の充実に努めた。 実施学校数:小学校8校、中学校3校	○維持メンテナンス的な環境整備が学校営繕費の軽減につながった。 ○今後も、児童生徒と保護者が協力して学校運営に取り組むことにより、家庭・地域と一体となった学校の活性化を目指す。

(2) 良好な教育環境の整備

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
学校施設環境整備事業 (学校教育課)	学校における校庭等の除草や簡易な施設補修等、日常的な維持管理業務を行うため、地域求職者を雇用し、良好な教育環境の整備を図る。 (緊急雇用創出事業)	○作業員を4名雇用し、学校敷地内及びその周辺の除草・清掃作業や学校施設の小修繕などを行った。	○当事業の実施により、学校施設の環境美化や、教員等学校職員の負担軽減などの成果があった。 ○県の緊急雇用創出事業が平成23年度で終了するため、平成24年度は予算措置されていないが、限られた財源の範囲内で当事業の目的を果たすため、より良い方法を検討していく。

(3) 学校安全対策の強化

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
南部中学校改築事業 (学校教育課)	南部中学校は昭和31年の建築以来53年が経過しており老朽化が著しい。また、耐震性にも劣ることから、安全で安心な教育環境を確保するために改築する。	○平成23年度校舎・屋体の工事完成	○校舎・屋体の工事は計画どおり年度内に完成した。 ○平成24年度以降、屋外環境整備(グラウンド整備)に取り組む。
朝日丘小学校改築事業 (学校教育課)	朝日丘小学校は南部中学校と同様に老朽化が著しく、耐震性にも劣ることから、安全で安心な教育環境を確保するために改築する。小中連携教育の取り組みに配慮した中学校との一体型施設として整備を行う。	○校舎棟の工事着手 ○体育館の工事請負契約を締結	○平成24年度内に校舎・体育館の工事を完成させる。 ○平成24年度以降、屋外環境整備に取り組む。 ○旧小学校の校舎の解体撤去を行うとともに、跡地の利用について検討する。

小学校施設耐震化推進事業 (学校教育課)	耐震診断の結果Is値0.7未満となった施設について、耐震化を進める。	○補強工事完了施設 窪小学校管理特別教室棟 ○工事着手施設 湖南小学校管理特別教室棟、宮田小学校管理特別教室棟、比美乃江小学校普通教室棟・管理特別教室棟	○平成24年度は湖南小学校、宮田小学校、比美乃江小学校の補強工事を完了する。 ○非構造部材の耐震化対策について、今後検討していく。
中学校施設耐震化推進事業 (学校教育課)	耐震診断の結果Is値0.7未満となった施設について、耐震化を進める。	○補強工事完了施設 北部中学校管理特別教室棟 ○工事着手施設 西部中学校管理普通教室棟	○平成24年度は西部中学校の補強工事を完了する。 ○非構造部材の耐震化対策について、今後検討していく。

基本方針4 高等学校・大学等と連携した教育の推進

(1) 地域に根ざした魅力ある高等学校事業への支援

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
新高校支援事業 (学校教育課)	平成22年度からスタートした新生氷見高校が、活気あふれる高校となるよう、先進的取組を行う学校視察や学習指導力向上及び魅力ある教育活動等の取組に対して支援を行う。	○県外高校において学校再編や専門教育などの観点から先進的な取組を視察する。(学校視察事業) ○教員の学習指導力や進路指導力の向上を目指して県外の大学や予備校の講習等を受講する。(学力向上事業) ○中学校等へ新高校を紹介するパンフレットを作成し、氷見市内、高岡市内の各中学校生徒に配布した。(新高校広報活動) ○新高校で行う新たに活動、未来講座「HIMI学」の円滑な実施や、有磯高校における地域連携活動を推進する。(魅力ある教育活動推進事業)	○新生氷見高校は本市の将来を担う人材を育成するために欠くことのできない教育機関であり、「HIMI学」等への支援を行うことで、ふるさとを理解し大切にす人材の育成を図った。 ○今後も、文理探究コースをはじめとする総合高校として特色ある取組や、郷土氷見にちなんだ「HIMI学」を支援していく必要がある。

基本目標B 次代を担う子どもたちの健全育成

基本方針1 家庭や地域の教育力の向上

(1) 家庭での教育力の向上

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
氷見親学び学習推進事業 (生涯学習課)	子育ては自然に受け継がれていく文化であったが、近年の核家族化や少子化によって子育てに対する不安を抱える親が増えるとともに家庭・地域での教育力が低下している。 親の子育てに対する不安を解消するとともに家庭・地域の教育力向上を目指し、親等を対象に県が作成した「親を学び伝える学習プログラム」(以下「プログラム」)を活用した学習会等を実施する。	○親学びに関する講演会を開催するとともに、市PTA連合会や地域子育てセンターが中心となって「親を学び伝える学習プログラム」の研修会を実施した。 ○8月27日に市民会館にて「親学び・子学び」(講師:明橋大二先生 真生会富山病院心療内科部長)の講演会を開催 ○親を学び伝える学習プログラムを活用した学習会 ・小中学校 中学校入学説明会、授業参観後に実施 ・未就学児 地域子育てセンターで17回開催	○全小中学校で親を学び伝える学習プログラムを実施するなど、着実な成果があった。 ○今後も市PTA連合会と連携して、引き続き小中学校で実施していく。また新たに企業内研修として親学びを実施することを予定している。

(2) 地域での教育力の向上

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
放課後子どもプラン推進事業 (生涯学習課)	子どもたちが、放課後、地域の方々に見守りと指導を受けながら、勉強やスポーツ、文化活動を行うことにより、地域社会の中で健やかに育まれる環境づくりを推進する。	○教室開設校区 10校区 22教室 朝日丘、窪、速川、海峰、十二町、上庄、明和、久目、灘浦、比美乃江 ○教室内容 茶道、折紙、書道、囲碁、民謡、百人一首、自然、英会話、子ども教室、科学実験教室等	○平成23年度は、新たに比美乃江校区で科学教室を開設し、理科を学ぶ面白さを知る機会を作り、学習意欲の向上に努めた。今年、この科学教室を十二町校区でも開設し、この輪を広げていくこととしており、地域のニーズに応えながら着実に教室が定着している。 ○今後も、地域や保護者からの要望等を受けて、子どもの放課後の安全な居場所づくりや学習面のサポートにも重点を置きながら、地域社会で見守る心豊かな子どもの育成に努めていく。

基本方針2 地域社会と学校の連携

(1) ふるさと教育の推進

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
「ふるさと学び」応援事業 (生涯学習課)	自らが住む地域の歴史・文化・自然の自主的な学習活動「ふるさと学び」を支援するため、地域の公民館で講座や調査活動を実施する。 平成22年度から3箇年の予定で、窪公民館と速川公民館で実施している。	○窪公民館 ・6月26日 現地学習「万葉集と氷見」高岡市万葉歴史館・勝興寺 ・11月19日「ふるさと学び健康ウォーキング～海浜植物と乱橋のトンボ池～」講師:海浜植物園 関谷秀勝氏、乱橋池を守る会 栗山静子氏 ・3月10日 講座「東北の釜石に奇跡を呼んだ“津波てんでんこ”に学ぶ～記憶を希望につなぐまちづくり～」講師:中尾俊雄氏 このほか、地域の地蔵まつりについて調査を実施した。 ○速川公民館 ・6月11日「床鍋地区虫送り」見学会 ・8月19日 講座「小窪の伽藍～氷見の奈良時代と古代寺院～」講師:生涯学習課 廣瀬直樹主任学芸員 ・12月16日 講座「私とまんが」講師:山下泰文氏 ・3月1日 講座「手仕事の魅力をさぐる～三尾のそうけづくり～」講師:坂田恒男氏、生涯学習課 小谷 超主査	○2年目である平成23年度は、講義形式に加えて、バスやウォーキングなど地域を巡り、地域の良さを知り、学習する機会を増やした。また講師に地域の人材を活用するように努めた。地域で、ふるさとについて学ぶことへの興味や、大切さについての理解が広がりつつある。 ○3年目は、調査や体験も組み込んで、次第に主体的な学びに取り組むよう進め、学習者自らがその成果をまとめて発表するなど「地域の学芸員」づくりを目指すものである。 ○3か年終了後の平成25年度以降は、新たな公民館で取り組みを行うことにより、「ふるさと学び」の輪を次第に全市的に広めていきたい。
「中学生ふるさと発見塾」開催授業 (生涯学習課)	市内の全中学1年生が史跡等を見学し、学芸員から詳細な解説を受ける環境を整備することにより、社会科への興味づけと郷土理解・郷土愛の醸成を図る。	○灘浦中学校(4月26日)、南部中学校(6月6日)、十三中学校(7月5日)、西條中学校(7月7日)、北部中学校(7月13日)、西部中学校(7月20日)の市内中学校6校全てが参加し、1年生及び引率教諭520名余りが、市内の国史跡、天然記念物等について、現地で学芸員の説明を聞いた。	○学校現場のニーズに合致し、良い相乗効果が現れている。 ○今後も全中学1年生が参加するこの事業を継続実施することとしており、古代の歴史を教科書の知識だけでなく、現地で学習することで、社会科の学習意欲の向上を図るとともに、郷土を愛する心を養う機会としたい。

基本目標C ライフステージに応じた生涯学習の推進

基本方針1 学習機会の充実

(1) 多様な講座等の開催

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
生涯学習リーダー養成事業 (生涯学習課)	造形芸術センターで行う各教室を運営している氷見市美術協会を支援する。	○地域でのリーダー養成を目的に4講座を開催した。(日本画、デッサン、陶芸、パッチワーク)	○各教室を受講される会員も大幅に増加しており着実に成果が上がっている。 ○新たに水彩画、油絵、版画等の講座を開催することとしており、引き続き生涯学習のリーダーを養成していきたい。

基本方針2 施設機能の充実

(1) 生涯学習施設の充実

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
移動図書館運営事業 (図書館)	図書館のサービス目標は、「誰でも、どこに住んでいても、どんな資料でも利用できる」ことである。そのため、図書館まで足を運びにくい方や幼児・児童らに、図書館資料を載せた移動図書館車を巡回する。サービスステーションを設置し、資料の貸出業務を行う。	○サービスステーションは、市内小学校12か所、幼稚園・保育園10か所、学童保育施設8か所、老人施設8か所、その他2か所で合計40か所である。前年度より学童施設と老人施設が各1か所増えている。 ○貸出冊数は、一般書 5,705冊、児童書 23,639冊 合計29,344冊(前年度比 11.7%増)であった。	○前年よりステーションが、2か所増え、貸出冊数も比例するように伸びている。 ○今後は、図書館の重要な事業として、継続していくが、ステーションを増やしたり、貸出箇所の利用状況にあわせるなどして、図書館資料費減による利用の減少にならないようにする。また、車体の耐用年数による新車の入れ替えが必要になる。
地域コミュニティ活性化事業 (中央公民館)	地域コミュニティを活性化させることによって、地域住民の人間関係を一層深め、郷土に誇りを持ち、地域に貢献する人材を育成するなど、郷土愛に根ざした人づくりを支援する。	○どてカボチャ見学会とカボチャ料理 ○高齢者健康づくり教室、食生活改善の料理教室 ○地域探訪と歩く会 ○異世代交流ソバ打ち体験教室 ○ふれあい餅つき大会(親子) ○こどもふるさと体験学習教室 ○地域、世代間交流パークゴルフ ○地域公民館まつり	○平成22年度では、新規事業のみの採択としていたが、事業を継続して行い、地区で定着させる必要があることから、平成23年度では継続も含む計画とした。特色のある地域行事の継続に、一定の後押しができた。 ○今後、周辺の公民館と連携した事業や活動が可能かどうか調査を行い、審査基準の見直しについて検討していく。

基本目標D 地域に伝わる歴史・文化遺産の保存活用

基本方針2 歴史・文化遺産の基盤整備・調査・研究

(1) 博物館機能の充実と活用

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
特別展開催事業 (博物館)	氷見地域の歴史について、特定のテーマや最新の研究成果に基づいた特別展を開催し、地域のあゆみの一端を広く一般に紹介する。	○特別展「卑弥呼の時代の氷見」-古墳出現前夜- 平成23年10月21日～11月13日 入館者 1,296人 資料解説会開催 ○特別展「氷見の獅子舞」-舞う獅子舞・舞わない獅子- 平成24年3月2日～3月25日 入館者 2,327人 資料解説会開催	○進展著しい市内の弥生時代研究をテーマにした特別展を開催し、最新の調査成果を紹介することができた。 ○獅子舞は市民の関心が高いテーマのため、多くの入館者があり、改めてその歴史や変遷を知ってもらえた。 ○今後も地域に根ざした博物館として、氷見地域をテーマとする特色ある特別展、企画展を年2回ペースで開催することにより、市民の文化遺産や文化財への関心をより一層高めたい。

(2) 調査研究の推進

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
文化財環境整備事業 (生涯学習課)	文化財の保護・活用を推進するため、文化財の消毒・修繕等の環境整備事業を実施する。併せて、市内の開発行為(個人の農地転用等)に伴う埋蔵文化財の試掘調査を実施する	○指定文化財の消毒や樹勢の衰えている長坂不動の大つばきの樹勢回復業務を実施した。 ○また、老朽化が激しく危険性の高かった藤波神社社叢の藤棚の取替工事など、普及啓発に関わる業務にも力を入れた。	○長坂不動の大つばきについては、現状維持に一定の成果はあったものの、3か年で樹勢を回復させる計画しており、本年のみでは不十分である。 ○今後も富山県樹木医会と連携を密にしながら効果的な手法を検討する必要がある。

<p>天然記念物イタセンパラ再生事業 (生涯学習課)</p>	<p>イタセンパラの保護、普及啓発を目的として、野外生息調査・環境調査を実施する。</p>	<p>○野外における調査活動では万尾川における産卵場所の特性や稚魚が選好する環境が分かりつつある。 ○全国的にみても氷見市のみが安定した生息地となっているため、氷見市における増殖要因を解明しつつ、小学校でのイタセンパラ教室など普及啓発についても富山大学山崎裕治准教授と連携しながらすすめた。</p>	<p>○富山大学との連携により、調査成果が着実に現れている。 ○今後は、イタセンパラにとって好適な環境を後世に残すために、客観的なデータを示しながら河川開発者側と話し合いの場を持つ必要がある。 ○また普及啓発については小学校のみではなく、氷見市全域から募集を募り「親子で学ぶイタセンパラ教室」を開催しながら、普及啓発の効果を上げる取り組みを行いたい。</p>
<p>大境洞窟居住跡保全整備事業 (生涯学習課)</p>	<p>平成22年度に落石・落盤によりき損が生じたことから、落石・落盤防止のための保全整備を実施し、見学者の安全の確保はもとより、史跡の保護も行う。</p>	<p>○大境洞窟西側の落石現場で見つかった空洞・洞窟の測量調査を実施。 ○その後、下部洞窟を裏込石およびモルタルにて閉塞する工事を実施した。 ○また、園路スロープの転落防護柵の追加工事を実施した。</p>	<p>○スケジュールどおり順調に工事は進んでおり、平成24年度は大境洞窟西側の落石現場の洞窟のうち、上部に位置する洞窟を軽量モルタルにて閉塞し、その前面に落石防護ネットを設置する。 ○工事終了後、保存整備事業報告書を作成・刊行する。</p>
<p>十二町瀉オニバス再生事業 (生涯学習課)</p>	<p>国指定天然記念物オニバス発生地を再生する。なお業務は氷見市オニバス研究会に委託する。</p>	<p>○国指定天然記念物指定地内のしゅんせつを地元と協力しながら実施した。 ○オニバス苗を200株以上移植したが、アメリカザリガニの影響により移植は失敗に終わった。 ○しかし、十二町瀉下流部(天然記念物指定地外)では200株以上のオニバスが発生しており、状況は良い。 ○ヒシの除去やヒメガマの刈り取りなどの業務も実施した。</p>	<p>○平成23年に氷見市オニバス研究会の代表が死去してから、会の活動が一部、滞った。 ○今後は新しい代表(岩坪美兼 富山大学教授)を中心にオニバスの再生について尽力したい。 ○ただ、天然記念物指定地内の環境がオニバスにとって不適という結果であれば、現在、指定地外でオニバスが繁茂している場所を天然記念物として「追加指定」するなどの方法も検討していく必要がある。</p>
<p>イタセンパラ保護環境整備事業 (生涯学習課)</p>	<p>イタセンパラ保護池を新規に造成することで、個体数・遺伝的多様性に配慮した生息域外保全を行い、本種の保護について万全を期す。</p>	<p>○平成23年度は池工事、水路工事および井戸工事を実施した。23年度工事の進捗率は100%であった。</p>	<p>○スケジュールどおり順調に工事は進んでおり、平成24年度は園路工事および学習棟の建設を行う。 ○また、保護池の状態を観察しながら、イタセンパラおよび二枚貝を放流することも検討したい。</p>

基本目標E 人生を豊かにする芸術・文化活動の推進

基本方針1 芸術文化による人づくり

(1) 芸術文化活動を生かした人づくり

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
「安部」人づくり基金運用事業 (学校教育課)	次代を担う青少年の育成等を図るため、故安部清氏の寄附金を基に、優れた功績があり、将来を嘱望される個人・団体を顕彰する。	○第21回安部賞表彰式において、富山県立有磯高等学校が教育文化部門で、谷内明日美さんが体育スポーツ部門でそれぞれ表彰された。	○氷見市「安部」人づくり委員会において第22回「安部賞」受賞者を慎重に審査した結果、該当者なしと決定された。 ○長引く超低金利時代の影響で、基金が元金の1億円を割るところにまできており、基金の運用も含めて、「安部賞」の選考方法について抜本的に見直す必要がある。

基本方針2 芸術文化の基盤づくり

(1) 市民会館機能の充実

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
市民会館活性化事業 (生涯学習課)	市内小・中学生や一般市民を対象に、各種の芸術文化普及事業や大衆娯楽事業を企画することにより、市民会館ホール等を活性化させる」とともに、市民の芸術文化の向上に資する。	○氷見市芸術文化振興会を組織し、その発足を記念して、11月16日に「宝塚OGスペシャルレビュー2011」を開催し、盛況を得た。	○良質な公演を開催することで、会館利用の促進と市街地の活性化に一定の成果があった。 ○市制60周年にあたる平成24年度は、演劇の「ローマの休日」「王様と私」を行い、またNHKの公開録音「真打ち競演」を実施するなど、引き続き、市民会館の活性化と市民に質の高い芸術鑑賞機会の提供を図っていききたい。

基本目標F すこやかな心と体をつくる生涯スポーツの推進

基本方針1 生涯スポーツに親しむ環境づくり

(1) 参加型事業の開催

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
氷見シーサイドマラソン大会実施事業 (生涯学習課)	誰もが気軽に参加できる「健康マラソン」として開催し、市民の健康と体力の維持増進を図る。	○10月10日「体育の日」に氷見漁港をスタート・ゴールとして実施した。2年ぶりの開催となったが、1,200名を越える参加者を得て大盛況のうちに実施できた。 参加者数 4kmコース 293人 2kmコース 678人 ファミリーコース 237人	○2年ぶりの開催となったが、1,200名を越える参加者を得て大盛況のうちに実施できた。 ○今後は、応援のために会場へ集る約2,000名の家族にも、参加者として走ってもらえるような魅力ある大会運営を目指す。
氷見キトキトウオーキング開催事業費補助金 (生涯学習課)	日本ウオーキング協会のオールジャパンウオーキングカップ認定大会、東海・北陸マーチングリーグ公式大会で、ツアーディーマーチ(2日間)として全国から参加者を募り開催している。	○10月22日、23日の2日間で、ふれあいスポーツセンター横の芝生広場をスタート・ゴールとして6コースで開催した。 参加者数 市内 290人 市外 175人 県外 212人	○平成22年度に開催できなかったことが影響したのか、延べ参加者数が677人で予想参加者数を若干下回った。 ○今後は、近隣市町村からの参加者増に向けて、県内各地のウオーキング行事でPR活動に努めたい。

(2) スポーツ団体との連携

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
スポーツ少年団交流事業 (生涯学習課)	姉妹都市との友好交流事業の一環として、長野県大町市、静岡県島田市、氷見市のスポーツ少年団員が友好を深めるもので、氷見市スポーツ少年団へ委託している。	○本市と姉妹都市提携を結んでいる大町市、島田市のスポーツ少年団と交流事業を実施した。 ○23年度は氷見市が開催地となり、7月30日～8月1日の2泊3日で実施した。 参加者 大町市 団員33人、指導者9人 島田市 団員24人、指導者11人 氷見市 団員42人、指導者23人	○開催市(当番制)として、海での魚釣り体験や海浜レクリエーションなど、氷見の特色を生かした交流会を実施できたと自負している。 ○3市の希望を調整して開催日を決定しているが、小学校の長期休業期間に諸事業が集中することから、調整が難しいことが課題として残った。

<p>総合型地域スポーツクラブ育成事業 (生涯学習課)</p>	<p>市内の2つの総合型地域スポーツクラブの活動に対して助言及び助成を行う。</p>	<p>○「スポーツプラザひみ」は学校体育施設等開放事業の21施設を主な活動拠点として、誰もが、気軽に、楽しんでスポーツに取り組める機会を提供している。 ○「ふれんず」はふれあいスポーツセンターを主な活動拠点とし、専門的なスポーツ指導を継続的に行い、技能・体力の維持向上に取り組んでいる。</p>	<p>○2つのクラブの活動の中で、共有する種目の活動を合同で実施するなど、両クラブの交流を促進するように助言をした。 ○それぞれの工夫し、特色のある事業を展開しているが、今後、会員数の増員に努めなければならない。</p>
-------------------------------------	--	---	--

基本方針2 全国や世界で活躍できる選手の育成

(1) 競技水準の向上

事業名等	事業の目的・内容	主な取組状況	点検評価及び今後の方向性
<p>春の全国中学生ハンドボール選手権大会開催事業費補助金 (生涯学習課)</p>	<p>(財)地域活性化センターのスポーツ拠点づくり推進事業の一環として、平成17年度～平成26年度まで10回開催を予定している。 全国47都道府県全てからチームの参加を目指して実施している。</p>	<p>○第7回大会を男子は46都道府県から47チーム、女子は44都道府県から45チームの計92チームの参加で開催した。 ○東日本大震災の復興支援として「～とどけよう スポーツの力を東北へ！」をサブテーマに掲げ、2年ぶりの大会を成功裏に終了した。</p>	<p>○東日本大震災の復興支援として「～とどけよう スポーツの力を東北へ！」をサブテーマに掲げ、2年ぶりの大会を成功裏に終了した。 ○次回大会(第8回)に向けて万全の準備を進める。</p>
<p>Vリーグ男子氷見大会開催事業費補助金 (生涯学習課)</p>	<p>トップアスリートの行き交うまち氷見を創造するため、豊田合成トレフェルサのサブホームタウンとしてVプレミアリーグを誘致し、その開催権料の一部を助成する。</p>	<p>○豊田合成トレフェルサのホームゲームとして、2月5日(日)、ふれあいスポーツセンターにてFC東京、東レアローズ、パナソニックサンバズを迎えて開催された。 ○2日間開催予定だったが、高岡市と1日ずつとなった。</p>	<p>○2日間開催予定だったが、インターハイ(バレーボール競技)が平成24年7月29日～8月7日の10日間で氷見市、高岡市で開催されることから、高岡市と1日ずつの実施となった。 ○平成24年度を補助最終年度とする。</p>

Ⅲ 点検及び評価に対する学識経験者の意見

(氷見の学力向上フロンティア事業について)

子どもたちの学力向上に多くのことに取り組んでおられ、十分な成果が得られているように思う。学力は上昇傾向にあると思うし、十分頑張っていると思う。

(コンピュータ支援講師配置事業について)

この事業は、学校にとって大変有難い事業で、随分助かっている。今、学校現場では、コンピュータ活用に関する研修は極めて少なくなっている。実際に活用する中で生じる疑問や不具合を、どう解消するかは容易ではなく、教員は手探りで技術を身に付けていかなければならない状態である。そういう時に、学校ですぐ相談できる支援員がいることは有り難く、学校はこういう人材を求めている。今後も、ぜひコンピュータ支援講師派遣事業を継続してもらいたい。

(電子黒板購入事業について)

市内全ての小学校へ導入した電子黒板を、これからも十分に活用してもらいたい。

(社会に学ぶ「14歳の挑戦」推進事業について)

- ・本事業は、生徒がいろいろな事業所でよい体験をでき、本当によい事業だと思う。5日間と言わずもっと長い期間、また1事業所と言わず複数の事業所へ行って体験してもらいたい。
- ・本事業は、実社会の中で中学2年生が「学ぶことの意義」を考えることができる、極めて有意義なものと考え。中学2年生を中心に、家庭、地域社会、学校の多くの大人が、力を合わせることに特色がある。この事業では、地域社会の人々とかかわる教職員、実際に生徒の相手をしてくださる地域の人々、自分の子どもを地域に送り出す保護者、三者三様に苦勞と成果を分かち合っているところにも意義があり、そのことも評価すべきことだ。

(氷見親学び学習推進事業について)

- ・市PTA連合会では今年度、親学びについて教育委員会と一緒に協力して取り組んでいる。親同士のコミュニケーションが図られ、良い成果が上がってきていると各学校の会長から聞いている。今後の方向性として企業内研修が計画されているが期待したい。

- ・地域子育てセンターで親学びを実践したが非常に良かったと思う。「三つ子の魂百まで」と言われるように、親としての学びも大切だと思う。

(「安部」人づくり基金運用事業について)

「安部賞」については選考方法の見直し等の課題があるようだが、ぜひ今年度内に検討してもらいたい。